

2026 年 2 月 13 日 NEWS RELEASE No.213

**『第 20 回 しょうゆ感想文コンクール』入賞者決定！**  
**—全国の小学生(3 年～6 年)から、925 点の応募—**

日本醤油協会(会長 堀切功章)では「食育」推進の一環として、「第 20 回しょうゆ感想文コンクール」を実施いたしました。

この感想文コンクールは、食育事業の一環として協会が実施している企画で、全国の小学生(3 年生～6 年生)を対象に、出前授業で学んだことや工場見学で体験したこと、好きなしょうゆ料理にまつわる思い出などを感想文という形で記録にとどめることを目的に、広く自由な発想の感想文を募集するものです。

昨年 12 月 5 日(金)に応募を締め切り、全国の児童から 2 つの部門に合計 925 点の応募をいただきました。それぞれの部門に日本の伝統調味料である“しょうゆ”について、子供らしい感性豊かな感想文が数多く寄せられました。

去る 2 月 2 日(月)に、下記の選考委員による「審査委員会」を開催し、厳正な審査の結果、別紙のとおり、各部門の入賞作品を決定いたしました。

なお、「審査委員会」では、予備審査を通過した 50 点の作品の中から、創造性(構想力)、文章力、発展性等を選考基準として厳正な選考を行いました。

《第 20 回「しょうゆ感想文コンクール」審査委員(敬称略・順不同)》

奈須正裕 (上智大学 教授)  
白岩 等 (昭和学院短期大学 教授)  
福留奈美 (東京聖栄大学 教授)  
増田修治 (白梅学園大学 元教授)  
内池 崇 (醤油 P R 運営委員会 委員長)  
般若攝也 (日本醤油協会 専務理事)

また、「第 21 回 しょうゆ感想文コンクール」は、本年 4 月より開始いたします。(応募締め切り:2026 年 12 月 4 日(金))。これまで以上に全国の多くの児童の皆さんからのご応募をお待ちしています。

## 第20回しょうゆ感想文コンクール入賞者一覧

2026年2月13日

主 催：日本醤油協会

審査委員：奈須正裕（上智大学 教授）

福留奈美（東京聖栄大学 教授）

内池 崇（醤油PR運営委員会 委員長）

白岩 等（昭和学院短期大学 教授）

増田修治（白梅学園大学 元教授）

般若攝也（日本醤油協会 専務理事）

賞名	受賞者詳細		
<b>1. 最優秀賞</b> 各部門1点 計2点	出前授業部門	つたえたいしょうゆのすごさ	いとう あきと 伊藤 暁士
	愛媛県	新居浜市立惣開小学校	
	しょうゆの思い出部門	しょうゆはわたしの相ぼう	ささじま まや 笹嶋 麻矢
	茨城県	土浦市立土浦小学校	

<b>2. 優秀賞</b> 各部門1点 計2点	出前授業部門	欠かせない存在	てづか ゆいと 手塚 結都
	千葉県	昭和学院小学校	
	しょうゆの思い出部門	日本のほこり～しょうゆの味～	ふじい あん 藤井 晏
	東京都	サレジアン国際学園目黒星美小学校	

<b>3. 佳作</b> 各部門5点 計10点	出前授業部門	しょうゆ出前じゅ業	おおき さほ 大木 咲穂
	福島県	玉川村立須釜小学校	
	出前授業部門	しょうゆのおいしいひみつ	おおの みつき 大野 充希
	埼玉県	川越市立寺尾小学校	
	出前授業部門	しょうゆのかおりはすごい	さいとう ひなた 齊藤 ひなた
	山梨県	南アルプス市立白根東小学校	
	出前授業部門	しょうゆはただ者ではない	かわはらづか りな 河原塚 理名
	兵庫県	西宮市立鳴尾東小学校	
	出前授業部門	しょうゆのべん強をしたよ	たかはし こころ 高橋 心暖
	島根県	江津市立郷田小学校	
	しょうゆの思い出部門	最強コンビ	あびこ りゅうせい 安孫子 竜青
	山形県	寒河江市立白岩小学校	
	しょうゆの思い出部門	しょうゆはみんなのたからもの	くわばら のえ 桑原 希英
	千葉県	昭和学院小学校	
	しょうゆの思い出部門	しょうゆはえんの下の力だった。	しむら ゆきひこ 志村 由紀彦
	千葉県	昭和学院小学校	
	しょうゆの思い出部門	おすしをおいしくするしょうゆ	くどう そういちろう 工藤 壮一郎
	東京都	中央区立久松小学校	
	しょうゆの思い出部門	自分の自慢のしょうゆ料理を作りたい！	しもやま はるま 下山 陽真
	埼玉県	鴻巣市立田間宮小学校	

賞名	都道府県名	学校名
<b>団体奨励賞</b> （1校）	福島県	玉川村立須釜小学校

※学年は2025年度です

## 「第20回しょうゆ感想文コンクール」最優秀賞 講評

審査委員会審査委員長 上智大学 教授 奈須正裕

### ●出前授業部門 最優秀賞

題名：つたえたいしょうゆのすごさ

伊藤 暁士 さん (愛媛県・新居浜市立惣開小学校 3年)

出前授業や国語の学習、さらに日常生活などで気づいた様々な「しょうゆのすごさ」を、順序立ててわかりやすく、また魅力的で説得的に書き記した、説明文のお手本とも言うべき作品に仕上がっています。1年生からの国語科学習の成果が存分に発揮されているとともに、今回の題材となったしょうゆを巡る一連の学びの質が高く、とりわけ筆者に強く響いたことが伺えます。タイトルにもなっている「つたえたい」という筆者の思いが、具体的な言葉や文として見事に結晶化していると感じました。

さらに「使い切れる小さいサイズのしょうゆをえらびたい」「旅行でちがう県に行ったときには、しょうゆを使ったりよう理を楽しみたい」など、学びを自身の暮らしに活かそうとしている点も素晴らしいと思います。感想文としての完成度の高さとともに、出前授業を契機に自らの暮らしを豊かにしようとしている、全方位的に安定感のある作品です。

### ●しょうゆの思い出部門 最優秀賞

題名：しょうゆはわたしの相ぼう

笹嶋 麻矢 さん (茨城県・土浦市立土浦小学校 3年)

「小さいころ、白いごはんが食べられず、お母さんがしょうゆをかけたらくさん食べるようになった」私。コロナウィルスに感染し、喉が痛くて何も食べられなかった時も、おばあちゃんが作ってくれたしょうゆおにぎりだけは食べられました。何度もしょうゆに助けられた私を、お母さんは「しょうゆはまやの相ぼうみたいだったよ」と言ってくれます。そんな家族の思い出話のきっかけになったのは、しょうゆ工場の見学でした。

最近は、大好きなしょうゆを使った料理も作れるようになり、なかでもしょうゆと砂糖と酢を合わせた春雨サラダのタレは絶品で、家族も「売っているやつよりも」美味しいとほめてくれます。家族団欒の中心にしょうゆがある。筆致は軽快でありつつも、ほのぼのとした景色が目に見え、実に叙情的な作品です。

以上の件に関する取材のお問合せは

しょうゆ情報センター(醤油PR協議会)  
大関 恒雄(事務局長)、小林 浩、中川美代子  
東京都中央区日本橋小網町3-11(〒103-0016)  
電話 03-3666-3286 FAX 03-3667-2216

URL: <https://www.soy sauce.or.jp/> E-mail: [soyic@soysauce.or.jp](mailto:soyic@soysauce.or.jp)